

九州大学総合研究 博物館ニュース

March 2009 No.12

常設展示室へようこそ:その4 九州北部の淡水魚類

中島 淳



1. カワバタモロコ、2. カゼトゲタナゴ、3. ニッポンバラタナゴ、4. スジシマドジョウ(九州型)

いわゆる「淡水魚」と呼ばれているものには、一生を淡水域で暮らす純淡水魚、海と川を行き来する通し回遊魚、川の水と海の水が混ざる河口や干潟で暮らす汽水魚が含まれます。これまでに、九州北部地域ではカゼトゲタナゴ、セボシタビラ、アリアケギバチなど九州固有の種類をはじめとして、150種以上の淡水魚類の分布が確認されています。当地域の淡水魚類相は、なぜこれほど豊かなのでしょうか？

九州の北東部の河川は、古い時代に本州・四国・九州東部の河川を結んで流れていた古瀬戸内水系に所属していたと推定されています。一方、九州の北西部の河川は、古い時代に朝鮮半島や中国大陸の河川と接続していた可能性が示唆されています。実際に、北東部の河川には、ギギやイシドジョウなど本州の瀬戸内側河川との共通種が分布しており、北西部の河川には、ヒナモロコやヤマノカミなど大陸河川との共通種が分布しています。これに加えて、サケやイトヨなど日本海を北方から回遊してくる種類、カライワシやテングヨウジな

ど東シナ海を南方から回遊してくる種、クルマサヨリやシロチチブなど瀬戸内海・有明海のような大規模な内海の汽水域を好む種、というように様々な起源の魚類が九州北部の河川に生息しています。

したがって、九州北部の淡水魚類相がこれほど豊かであるのは、東西で別々の水系を通して別々の魚類が移動して住み着いたこと、日本海、東シナ海、瀬戸内海、有明海という、個性的な海域に囲まれていること、に大きな理由があるのです。さらに付け加えるならば、古くから地質が安定していることや、山系が複雑で大小様々な数多くの河川が存在し多様な環境構造を有すること、などの地史的・地形的特徴を持つことも重要な要素です。

また、九州北部地域は干潟環境も大変豊かで、アオギス、キセルハゼ、クボハゼなど国内他地域で減少している種の生息地が数多く残っています。有明海には日本固有種のアリアケヒメシラウオをはじめ、日本ではここでしかみられないアリ

